

(1) 単元名： 立方体の展開図

(2) 本時の目標： 立方体のいろいろな展開図をつくり、説明することができる。

※リフレクションシートに記されている児童生徒名はすべて仮名である。(時間単位：分)



東村立有銘小中学校。私にとって「いつでも行きたくなる学校」である。学校全体が常に整然（ゴミが見えない、用具が乱雑でない）としている。校門周辺と校舎前には、卒業式を飾るであろう花々が美しくさいている。見せようと思ってさいているのではなく、訪問者への心遣いであろう、ポツンとさりげなく咲いている。さらに玄関入り口横の立て看板に目をやると、家族の思いが大切に扱われている。私にとって癒され優しい気持ちになれる不思議な学校だ。

【同僚の授業公開】 小学校 4年算数 H先生
複式学級であるが、国語・算数は単式で行われている。
4年生男子2名、女子3名 計5名

3校時に、中学校のS先生の1年の数学の授業参観をさせてもらった。ついでにということで古我知先生にも、授業見せてくれませんかとお願したところ、不愉快な顔一つせず「私のでよければどうぞ。」と言うことで参観がかなった。感謝、感謝です。

以前にS先生の授業を参観させてもらったときに、H先生も「学び」の授業に大変興味関心を抱いて頂いた。それからS先生と二人で相談しながら、見よう見まね勝手に「こんなものかな？」とりあえずS先生の模倣で実践しているらしい。

しかし、びっくりである。学び合いの授業モデルとして十分すぎるほどの深まりに感激である。



0:00【授業導入】前時の展開図作図の復習から入る。正方形6個(6面写真②)を使って説明する

実にしっとりとした授業の入りである。身構えがまったくなく、緊張感もない。しかし学習意欲は半端じゃない。この後繰り返される5人の『学び合い・支え合い・分かり合う』学びに感動を超えた感激的なものがあった。教師と子ども達の関係が出来上がっているところなのか。

2:00 前時の学習の振り返りを全員で発表し共有した。発表の前にペアで前時の確認が交わされた(写真①) 写真②仲間の発表を見つめる仲間と教師のあり方である。「聴き合う」の空気が教室を和ませる。



写真①



写真②



写真③

【教師の位置】

子どもの発表の間、教師は座ったまま、ただうなずいているだけだった。発表者と仲間の目線の位置に入らないようにしていた。

9:00【本時の課題1】

条件付の立方体の展開図の作図。3つ並べた状態に後の3つを加えて立方体が完成するように展開図を作成する。



10:00 課題解決へ

「個人でやる」→「ペアで確かめる」→「グループで確かめる」→「全体で共有する」が形作られている。このクラスの仲間達は実に学習の流れを把握している。まずは各々で正方形6個を使って課題解決に挑む、いきなりの依存がない。しかし、個人作業の間も仲間の疑問があれば丁寧に寄り添う。



個人作業



写真④

13:20 写真④、最初の課題の共有が図られているところである。教師の位置もすばらしい。子ども達も自分達で分かり合うことを前提としている。手前の女の子の疑問は男の子が説明した。実に和やかで、ステキ、美しいに値する。「支え合う・分かり合う」

15:00 【本時の課題2】

条件付の立方体の展開図の作図。2つ並べた状態に後の4つを加えて立方体が完成するように展開図を作成する。



写真⑤



写真⑥

ここから始まる、まさに感動的でドラマチックな「学び合い」を私はまったく予想も想像もしていなかった。この後の10分間を書き表すことは難しい。

「学び合い」「支え合い」「分かり合う」「協力」「協同」「対話」「躡き」「もがき」すべてがある。

2つ以上の並びができない、面は6面。正方形をいろいろ並び替えて頭の中で組み立てたときの形を思考する(写真⑤)。写真⑥ついにみんなの手を使って組み立ててみる。この深い思考と、支え合い、分かろうとする姿勢こそ、「学び合う学び」の子ども達の姿ではないだろうか。

この時点で教師の関わりはほとんど見られない事がまたすばらしい。

17:00 ほぼ全員の考えをとりあえず共有する。

19:00 全員の手で全員の考えを確かめる。(まさに共同作業)

21:00 直哉さんの疑問に実虎さんと綺羅さんが必死に説明する。

22:00 直哉さんの疑問を教師が整理する→実虎がさらに説明する
直哉「あ〜わかった〜」(※教師は疑問の整理だけです。)

教師の立派な分かりやすい説明ではない、直哉は仲間の必死の説明で納得したのだ。「分かってもらおう」と必死になって言葉をつづった仲間達ですばらしい。さらに一切の口出しをせず、ただ静かに見守っていた目立たないすばらしい教師がそこにいた。

26:00 教師は、今日の学習が教科書のP113の内容の学習であったことを確かめた。ここで確認しておきたいことは、すべてをやり終えて初めてテキストが学習の確認としてだけ使われたことだ。



さらに、ここで新たな授業のデザインである。予定より早く終わったのでP114の課題をやってみようということになった。まさに授業はデザインするのである。その時、この状況での教師の「見取り」と「判断」である。おそらく教師の頭の中には、子ども達の状況と、課題の難易度が計算されたと考える。

やることははっきりしたら、後は子ども達が勝手にやり始める、教師の余計な説明や確認はない、黙読からすぐに自力で課題解決に取りかかる。

実に、よけいな指示や言葉が交わされない。



自然に深まっていく
まずは自分でペアで、
グループで、全体で、
静かに当たり前時間が
流れる。右写真は、
「訊き合い」である。



見てほしい【教師の位置】

一応教師は居るが・・・何も語らない。

35:00 【教師がつなく】



写真⑦



写真⑧

教師の「つなく」行為は大切である。特に疑問はあるが、仲間との学び合いに参加できないで居る子へのケアとして「仲間につなく」は教師が一番気にかけてケアにあたらないといけない大切な行為である。写真⑦⑧は、学び合いに入れない女の子を教師が意図的に二人の仲間につないだシーンである。

どれほどうれしかっただろう、気にかけてくれていた教師に感謝です。

H先生、ありがとうございます。

正直言って授業終了後、しばらく言葉を失いかけた私でした(実際「はぁ〜」感嘆の声だけ)。私が追い続けている「学び合い」のシーンを、自然に美しく見せてもらったような気がしました。決して大げさに褒めて取り立てているではありません。本日は、たまたま、ビデオも撮影しました。今後「学び」に挑戦する教師達の教材として使わせていただきたく思っています。同じように国頭村でも多くの教師たちが挑戦を続けています。みんな謙虚で実にしっとり静かな先生ばかりです。来年はぜひ、国頭村の先生方との交流もできたらいいなと思いました。国語の授業DVDもあります。今度はぜひ国語の「物語」で挑戦してみてください。

国頭学びの会ゆい